



岐阜県警察記者クラブ同時発表
岐阜県政記者クラブ加盟社 各位

令和5年6月19日（月）		岐阜県発表資料	
担当課	担当係	担当者	電話番号
県警本部国際捜査課	在留外国人 総合対策係	蕨野 孝	058-271-2424 (内線4761)
外国人活躍・共生社会推進課	多文化共生係	水野 智裕	内線 2562 直通 058-272-1483 FAX 058-278-2562

警察職員向け「やさしい日本語」研修会を開催します

「やさしい日本語」とは、普段の日本語を外国人が理解しやすいように言い換えた、簡単な日本語のことです。在住外国人の76%が「やさしい日本語」による情報発信を希望しているとの調査結果（※2018年東京都国際交流委員会調査結果）もあり、多国籍化が進む中、外国人への情報発信の有効な手段と考えられます。

多くの日本人が「やさしい日本語」のスキルを身に付けることは、外国人を受け入れる日本人側の意識変容を促すとともに、地域での交流や災害時の対応がしやすくなり、結果として地域活性化に結び付くことも期待されます。

このたび、岐阜県と岐阜県警察本部が連携し、地域の安全・安心を守る警察職員向けに「やさしい日本語」を学ぶ研修会を開催することとしましたのでお知らせします。

記

1 日時

令和5年6月30日（金） 13:30～15:30

2 場所

岐阜県警察本部 6階大会議室（岐阜市藪田南2-1-1）

3 内容

「外国人県民とのコミュニケーション ～日本語で伝えるコツを考えよう～」

講師：安藤 郁美（あんどう いくみ 岐阜県日本語教育総括コーディネーター）

4 参加対象者

警察本部、警察署に勤務する職員 約50名

（※一部の参加者はオンラインで参加）

5 その他

取材を希望される方は、開催日前日までに外国人活躍・共生社会推進課までご連絡ください。

外国人県民に対する日本語教育の取組み

岐阜県では、令和元年度から、「日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」において、すべての外国人県民が日常生活に必要な日本語を学べる環境を整備するため、次のような取組を進めています。

- 1 日本語教育総括コーディネーターの配置し、事業全体の方針作成や内容の調整を実施
- 2 教材やカリキュラムの作成、日本語教育人材の育成等を推進
- 3 市町村や企業に対し、運営費補助や専門家派遣などにより、地域日本語教室の開設を支援

「やさしい日本語」とは

- ・「やさしい日本語」は1995年の阪神・淡路大震災で外国人住民に情報が届かなかったという反省をもとに生まれたものです。発災直後の混乱の中でも速く、多くの人に正しく情報を伝えるためには、多言語化に加え外国人にも理解しやすい「やさしい日本語」での発信が有効であるという考えから、弘前大学社会言語学研究室が中心となって取り組みました。現在は、防災以外の分野でも活用されています。
- ・岐阜県では、令和4年6月に外国人県民人口が61,000人を超え、過去最高となるなど、一定言語の通訳者を配置するだけでは対応しきれないケースが多く発生しています。また、外国人県民からの日本語での通報・相談も増加しています。こうした状況に対応するため、「日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の一環として「やさしい日本語」の普及に取り組んでいます。外国人を受け入れる日本人側の意識醸成を促すことや、子ども、障がい者、高齢者に対する情報伝達においても有効であると考えています。